

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム 富沢	ユニット名	壺番館
所在地	宮城県仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	平成23年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々にとってよりよい生活は何かを考え、毎年目標を立てている。目標を達成する為に必要なことを行いつつ目標に近づけるよう支援させていただいております。入居者の方々の言葉に出来ない思いを少しでも引き出せるように工夫しつつ、思いをかなえることが出来るように支援させていただいております。又、ユニットの枠にとらわれるのではなく、ユニット間の交流もあり、いつもとは違う環境、人と関わることにより多くの笑顔を見せていただいております。ケアの根底にあるのは、入居者の方々一人ひとりが何を望まれているのかを察しながら、それをかなえる事により見せていただける笑顔になれる時間を少しでも多く作れるよう心がけお手伝いさせていただいております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年11月2日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄富沢駅より徒歩12分、まだ畑等が残る新しい町に位置している。近くにホームの運営母体でありバックアップ施設でもある協力医療機関仙台富沢病院がある。ホームの基本理念「抜粋:笑顔の絶えない生活・家庭的な雰囲気・自分らしさを大切に・近所付き合いや自然との触れ合い」を毎年目標に落とし込み、入居者のケアに反映している。またターミナルの基本理念「笑顔で人生楽しかったと思っただけに生活していけます」を踏まえ、看取りを実施している。看取りを経験し「もっとしてあげる事があったのでは?と悔いは残ったが次の時に生かして行こう」と一人ひとりが成長したように思うと職員が話していた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢)「ユニット名 吉番館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各スタッフグループホームの理念を実現するべくケアを行っている。又、理念を実現するためにユニット毎の目標を立て年度末までには達成できるように日々自己研鑽に励んでいる。	吉番館「新発見！あなたの喜怒哀楽ありのままの姿で」式番館「一緒にやれば思い出できる、スイッチ見つける、楽しめる信頼関係」参番館「まず、やってみよう」をケアの指針とし、年末にふり返り次年度に反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りの行事などで町内会にご協力を頂いたり、町内会のお祭りに参加したり、児童館や小学校の行事などにも参加していただき日常的に地域の方々に関われるように交流を行っている。	町内会の秋祭りに参加、保育園の夕涼み会やクリスマス会・小学校運動会への招待もある。保育園の畑や近隣の畑も多く、散歩の時など、こちらから積極的に声掛けをしている。ホームの夏祭りには町内の参加も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームで作成している広報誌などを通して、認知症を理解していただけるように努めている。その他いつでも相談に乗れるように配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	震災直後以外は2ヶ月に1度運営推進会議を行っており、他の事業所や地域の方々と話し合い、頂いた色々な意見を参考にしサービスの向上に努めている。	毎回包括支援センター職員参加で年6回実施している。施設の状況についてや地域の情報交換はある。今後は入居者・ご家族の参加を促し、双方向的な意見交換を持ち、ホームのサービス向上に活かすよう期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区に作成した広報誌を送るようにしている。又、わからない点、疑問な点などがある場合は問い合わせをしご意見を頂いたりしている。	手続き上の疑問点等についてや実地指導でアドバイスをいただいている。町内会が2年前に設立、地域包括支援センターと一緒に社会資源の一環としてのグループホームの説明や理解をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し委員会を中心に拘束を行わないケアを実践できるように努力している。又、各自でも自分たちのケアを見直し、その場その場で話し合いを行いながら、どのようにすればよいか考えながらケアを行っている。	身体拘束委員会もありユニット合同で毎月1回実施し、どのような事が拘束に繋がるのか、実際に言葉使いや、行動の制止などシュミレーションしてケアに反映している。各ユニットに自由に行き来できるように同行したり、自由度を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置し、委員会を中心に学べる場を設けている。何がどのようにいけないのか考え、自分たちのケアが虐待に繋がっていないか見直しを行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者の方もおり、必要性がある方に関してはご家族様と相談し対応している。職員に関しては理解が不十分である為今後勉強会などを通し、理解を深める機会を作っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や契約時に十分な説明を行っている。説明の都度ご不明な点はないか、不安なことはないかお尋ねするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来訪された時に、入居者の方々の様子をお話すると共に、ご家族様のご意見などを確認させていただき、今後の運営に反映できるように努めている。	意見箱を設置、家族から「意見入れておいたよ」の声掛けがある事もある。また来訪時に「服装の調節について」や「外出について」など気軽にお話し頂き、職員間で意思を統一できるようにして対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者や全体会議や各ユニットの会議に参加しその場での職員の意見や、提案を聞く機会を作っている。又、必要であればその都度法人本部のほうに働きかけるようにしている。	今回の震災を通して、職員で防災備品の総点検をし整備につなげた。各委員会からの提案は管理者が「まず、やってみましょう」と声掛けをし、ケアの実施や敬老会のお楽しみプレゼントなどに意見の反映がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の希望に沿った労働時間など就業環境の改善に努めている。又年に1回職員の自己評価を行い、個々の目標を設定しその目標に向かい努力することでやりがいを感じてもらえるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を行い、各職員のスキルアップにつなげている。同一法人の病院でおこなわれる勉強会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のスキルアップ研修や法人の勉強会などで交流を図っている。そこで得た情報などをホームに持ち帰り還元しサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めから得ている情報を元にご本人様がどのように暮らして行きたいのかを確認しご本人様やご家族様にとって困っていること、不安に思っていることを解消できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりご家族様の感じている不安、戸惑いなどを確認しながら、ご家族様に安心して頂けるようようにご本人様の状態を細かく報告することや、笑顔で生活していただけている様子を見ていただけるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居する以前からの情報を元に、ご本人様、ご家族様が共に何を望まれているのかを確認しながら必要とされる支援を提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々と「喜・怒・哀・楽」を分かち合い暮らしていくということ、一緒に生活を送る家族であるということスタッフが理解し関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは些細なことでも変化があった場合はご報告したり入居者の方々とかわりを持つ機会を多くすることにより、一緒に生活していなくても入居者の方々と共に支えているという実感を持っていただけるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで培ってきた生き方、暮らし方、昔からの友人等との関係性を今後も続けていけるようご家族様と相談しながら支援している。	馴染みの美容院を利用する時はその美容院に茶飲み友達が集まるよう店主が声掛けしてくれている。「家に行きたい」の思いでは本人の言うままの道を車で支援、家に着くと道を覚えていた事に満足し笑顔が見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方々一人ひとりの性格を理解し、関わり方を考えながら支援している。思いや希望を尊重しながら、ホームで笑って生活していただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、入院されているのであれば面会を続けさせていただいたり、ご家族様からもご連絡を頂き、その都度ご相談に応じさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、ご本人様の希望や要望を汲み取るようにしている。自分の思いを表現できる方はもちろん、表現できない方に対しても、ご家族様に確認したり、生活の中でのご本人様の表情から汲み取るようにしている。	している事が、楽しそうか否か、好きか嫌いかなど反応や表情に気を配り、その場で職員同士が話し合い、思いの把握に努めている。茶碗など買い物の際に入居者の好きな色柄で選ぶ手伝いをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやセンター方式のアセスメントを通し、なるべく今までの生活に近づくことが出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ一人ひとりが入居者の方々をよく観察しいつもと違う様子があれば申し送るようにしている。又、ケース記録にも細かく一日の様子を残すようにしておりその日に出勤していない職員も状況がわかるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやアセスメントの際にそれまで頂いていたご家族様の意見や、スタッフの意見を会議などで取り入れてケアプランに活かしている。	本人の「夏祭りに向け歌を披露したい」の練習を組み入れたり、「ラーメン食べに行きたい」に歩いて行く為に段差があるので下肢筋力をつける等ケアプランに反映している。3ヶ月に1回プランを見直し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の行動や、精神状態を記録に残し一人ひとりの状態を把握できるように努めている。記録から得られた情報を職員は必ず確認するようにして情報の共有を図ったり、ケアプランの作成に反映させたりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様がご希望される場合はそのニーズに合わせて地域資源やサービスを取り入れるようにしている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所にあるスーパーへ買い物に行ったり、食堂でご飯を食べたりすることによって地域の方々に知っていただきながら楽しく生活できるように努めている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様が望まれる医療機関に受診できるよう支援させていただいている。とくにかかりつけ医が居られない場合は協力機関を紹介させていただいている。	かかりつけ医は基本的に家族が支援通院している。ホームの近くであれば職員が支援することもある。受診時の生活状況は口頭もしくは書面で家族に伝え、受診報告は口頭で受け受診報告書に記入している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師と相談しながら、入居者一人ひとりに対してよりよい介護、医療が提供できるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前、入院中は常に病院と情報交換を行っている。早めに医師と相談しながら出来るだけ早めに退院して頂けるようご相談をおこなっている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には入居時にご説明させていただいている。又、ケアプランの説明の際や体調を崩されたときなどにご家族様やご本人様のご意向を確認し対応させていただいている。	重度化・看取りの指針があり、同意書もいただいている。すでに2例の看取りを実施している。往診クリニックの先生にターミナル(入居者の死をどのように迎えるか)についての研修を受けた。身寄りの無い方の支援では、都度スタッフ、看護師、医師との連携で対応した。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、その都度勉強会や会議などでマニュアルを使用しながら、シュミレーションを行い実践力を身につけている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	マニュアルに基づき同法人の病院と連携をとったり、町内会と連携をとっている。ホーム内での避難訓練も2ヶ月に1回実施している。	訓練に地震想定も加わった。火災訓練では大家さんや地域の人も参加して実施している。訓練終了後の反省会では非常口の活用方法などを話し合った。地域の防災訓練には職員が炊き出しなどに参加している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居されている方々は、年上であり、人生経験豊富な方達であることを常に念頭に置き、それに配慮した声かけを行う様にしている。	名前や名字にさん付けで呼んでいる。トイレの声掛けなどは羞恥心に配慮した誘いで工夫している。ゆったり・のんびりと時間が流れる雰囲気がある。便りの写真掲載時家族の確認を取っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段からコミュニケーションを積極的にとる様に心がけ、入居者様からも話しかけやすい雰囲気や関係性を作れるよう努めている。また会話中でも、本人様の発言を注意深く見守り、本人様の本当の気持ちに気づけるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり生活のペースが違う為、その方のペースや体調、気分に合わせて食事の時間をずらしたり、居室配膳なども行っている。又買い物や、散歩のニーズに対しても希望時や訴え時は速やかに対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の会話から、好きな色や、趣味などの聴取を行っている。本人様と一緒にその日に着る服を選んだり、なかなか選べない人に対しても選びやすいように工夫をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者様は共に食事を摂りつつ、好みの把握に努めている。お好きでないものや、あまり食が進まないようなときもお声掛けしながらお勧めするようにしている。	献立は各ユニットで1週間ごとに立て、年末に富沢病院の栄養士に指導を受けている。食材の買い物や調理や後片付けなどを入居者と一緒にし、行事の時の出前や誕生日のケーキ作りなどは楽しみの一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を記録して食事量の足りない方は補食を提供したり、水分量が少ない方に対しては小まめに水分を提供し召し上がっていただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で口腔ケアが出来る方に関してはこえがけや見守りを行うようにし、一人で難しい方に関してはお手伝いさせていただくようにしている。義歯は夜ご本人様が嫌がらなければはずして洗浄していただくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表より確認しパターンに合わせてトイレ誘導を行っている。又、下剤を内服された方に対しては通常の誘導以外にも様子を伺いつつ必要時お声掛けさせていただいている。	排泄チェック表を活用し、職員のさりげない誘導で失敗する事の無いよう支援している。日中は1人を除いてリハビリパンツや布パンツを使用し、快適に過ごしていただけるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方に対しては牛乳を提供したり、トイレの際に腹部マッサージを行ってみたり、体を動かす機会を提供させていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様のペースや体調に合わせて声がけを行うようにしている。希望される時間に合わせて入浴いただいたり、毎日の入浴を希望される方に対しては毎日入浴していただけるよう配慮している。	入浴は一日おき(希望があれば毎日)午後2時から9時までの間に実施している。生活習慣で夜間浴を希望する人にも対応し支援している。入浴拒否の方には手をつないで気分を盛り上げたり、時間を調整対応している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様が過ごしやすくゆっくり休んで頂ける様に居室の模様替えや配置換えを行い安心して気持ちよく休んで頂ける様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人で内服が可能な方に対しては見守りのもと、内服していただくようにしている。介助が必要な方に対しては確実に内服していただけるように見守り、確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームに自分の居場所があるという安心感を持って頂いた上で、皆様一人ひとりにあった接し方、話し方、共同作業やお手伝いをお願いしている。一人の時間もゆったりと過ごしていただき穏やかな毎日を送っていただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話の中から、その方が何が食べたいのか、買いたいのか、欲しいのか、行きたいのか等の要望や希望を聞き取ったり、汲み取るようにしている。自分の意思を表すことができる方も、出来ない方も楽しんでいただけるように支援している。	定期的に行事外出(雑誌を見ながら行きたい所など把握)を企画、デイケアのバスを利用し、西公園、七夕、動物園、名取エアリ等に出かけている。交通量の少ないホーム周りの畑や小学校付近を散歩している。職員と喫茶店に出かけコーヒーを飲む事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で使うお金が身近にあるということはごく自然なことであることをまず念頭に置き、自分が使いたいときに使えるように職員一同支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話や手紙を利用するお手伝いをしている。家族に会いたい、自分は一人だと思われる方に対していつでもお電話や、お手紙が出せるよう、ご家族様にもご協力いただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、季節感を感じられるように季節の言葉や風景をスタッフ、入居者様と一緒に考え、習字をしたり、塗り絵をしたりしている。穏やかに過ごせるように、暖色の光を使ったり、目の見えない方に関しては本人に合わせた光の色を使用している。	白内障・緑内障の方には電球のワット数を上げたり、電気カーの工夫で明るさを上げるなどしている。湿度は加湿器を使うなど職員が気を配っている。入居者と一緒に作った貼り絵は季節感もあり暖かい。行事写真は家族が手に取って見られる様に工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人の時間も大切にしますが、孤独感を感じないで済むようあまりに一人でいる時間が長い方に関してはスタッフが訪室したり、ホールで過ごしていただけるようお声掛けするようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から愛用している家具やぬいぐるみなどを持ってきていただき、くつろげる部屋を作れるよう支援している。ホールとは違ったゆったり出来る空間になるように、ご家族様にもご協力を頂いている。	家族と寛ぐソファを置いたり、孫の写真を飾ったり、家族が入居者と一緒にインテリアの工夫をしている。鏡が好きな方が姿見が欲しいとの事で、店で一緒に買ってレイアウトしたこともある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様のペースや状態に合わせ一日の大まかな流れを居室に貼っている方も居られる。時間を決めてはいないが本人様が何をすればいいのかわからないと混乱されることがあるためわかりやすく工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢	ユニット名	貳番館
所在地	宮城県仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	平成23年10月14日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年11月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

畑や、田んぼに囲まれている土地柄の為、散歩の機会を多く作るようにし、季節の移り変わりや、風景などを楽しんでいただきながら下肢筋力の維持にも役立てております。町内会にも参加しており、近隣にある保育園や、小学校、児童館などとも交流させていただき、催し物にも参加させていただき皆様楽しくされております。ホーム側としても、毎年行っている夏祭りにも地域の方々にもお声掛けさせていただいており、夏祭りを通してホームへの理解を深めていただけるように働きかけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄富沢駅より徒歩12分、まだ畑等が残る新しい町に位置している。近くにホームの運営母体でありバックアップ施設でもある協力医療機関仙台富沢病院がある。ホームの基本理念「抜粋:笑顔の絶えない生活・家庭的な雰囲気・自分らしさを大切に・近所付き合いや自然との触れ合い」を毎年目標に落とし込み、入居者のケアに反映している。またターミナルの基本理念「笑顔で人生楽しかったと思っただけのように一緒に生活していきます」を踏まえ、看取りを実施している。看取りを経験し「もっとしてあげることがあったのでは?と悔いは残ったが次の時に生かして行こう」と一人ひとりが成長したように思うと職員が話していた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢)「ユニット名 弐番館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた目標をユニットごとに毎年作成し、目標達成に向けて実践している。又、半期に一度目標の再確認を行い、どの程度達成できているのかを確認し全職員が同じ方向性を持ってケアを提供している。	吉番館「新発見！あなたの喜怒哀楽ありのままの姿で」弐番館「一緒にやれば思い出できる、スイッチ見つける、楽しめる信頼関係」参番館「まず、やってみよう」をケアの指針とし、年末にふり返り次年度に反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、地域や近隣の学校等の行事にも参加させていただいている。又、ホームの行事にも参加していただけるよう働きかけを行い参加していただいている。	町内会の秋祭りに参加、保育園の夕涼み会やクリスマス会・小学校運動会への招待もある。保育園の畑や近隣の畑も多く、散歩の時など、こちらから積極的に声掛けをしている。ホームの夏祭りには町内の参加も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの生活の様子やイベントの様子などが伝わるように広報誌を発行している。夏祭りなどでも地域の方を招き、ホームでの様子がわかっていただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際に参加されている方々からでた意見などを真摯に受け止め必要であれば各ユニットや全体会議などで話し合いサービスに反映できるようにしている。	毎回包括支援センター職員参加で年6回実施している。施設の状況についてや地域の情報交換はある。今後は入居者・ご家族の参加を促し、双方向的な意見交換を持ち、ホームのサービス向上に活かすよう期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないことなどがあればその都度確認し、指導を仰ぐようにしている。	手続き上の疑問点等についてや実地指導でアドバイスをいただいている。町内会が2年前に設立、地域包括支援センターと一緒に社会資源の一環としてのグループホームの説明や理解をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する委員会を設置し勉強会を開催し知識を意識を高められるようにしている。又、日々のケアが身体拘束などにならないかどうが見直すようにしている。	身体拘束委員会もありユニット合同で毎月1回実施し、どのような事が拘束に繋がるのか、実際に言葉使いや、行動の制止などシュミレーションしてケアに反映している。各ユニットに自由に行き来できるように同行したり、自由度を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会が中心となり勉強会を行い、日常の対応についてどのようなものが虐待にあたるのかを知識としてもてるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護等に関する研修に参加し必要に応じて制度を活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時以外でも不明な点などある場合はその都度ご説明させていただいている。又、入居に対しての不安等もその都度お聞きし安心して入居していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には積極的にご家族様にお声掛けするようにしている。又ケアプラン等の説明の際に意見を頂ける様にしている。いただいたご意見はユニット会議や全体会議にかけケアや運営に反映するようにしている。	意見箱を設置、家族から「意見入れておいたよ」の声掛けがある事もある。また来訪時に「服装の調節について」や「外出について」など気軽にお話し頂き、職員間で意思を統一できるようにして対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議を通してスタッフの意見を募り必要に応じて本部と相談し改善するように努めている。	今回の震災を通して、職員で防災備品の総点検をし整備につなげた。各委員会からの提案は管理者が「まず、やってみましょう」と声掛けをし、ケアの実施や敬老会のお楽しみプレゼントなどに意見の反映がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務に関しては相談に応じ臨機応変に対応できるようにしている。又面談を行い個人の目標をたててもらいどれくらい達成できているのか見極めるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に積極的に参加してもらい知識を習得する機会を作り習得した内容を伝達講習にて周知徹底を図っている。技術的に不明な事もアンケートで何がわからないのかを確認し日々のケアに繋がるよう技術習得の為の勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などを通して知り合った同業者と交流を積極的に持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様や、ご本人様の状況を良く知っているご家族様やサービスの担当者からも本人様が不安に思っていることを聴取するようにし、出来るだけ安心して新しい生活を送っていただけるように接するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの受付時や入居のご説明の際に不安に思っていることなどを聴取するようにし出来るだけ不安に思っていることなど改善できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用する前よりアセスメントしその方に対して何が必要で何が必要ではないのかを見極めサービスを提供するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が続けてきたことややりたい事を継続して行えるように職員が見極め、共有し共に生活する仲間として生活できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に生活をしていなくても、ご家族様のご意見を頂き反映できるようにしている。又、本人様の不安を軽減できるようにご家族様に協力していただきながらスタッフだけではなくご家族様にも関わっていると思っただけのように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は特に設定せずいつでも来ていただけるように雰囲気作りを行っている。又、ご本人様やご家族様からご本人様のなじみの場所を聴取し入居前の関係を保てるように支援している。	馴染の美容院を利用する時はその美容院に茶飲み友達が集まるよう店主が声掛けしてくれている。「家に行きたい」の思いでは本人の言うままの道を車で支援、家に着くと道を覚えていた事に満足し笑顔が見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居されている方々の性格や趣味を配慮しスタッフ間でも情報を共有しユニットの枠にとられないのではなくホーム全体で交流できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後もご相談に乗れることを退去時にご説明し必要に応じて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望や意向を聴取しケアに反映するようにしている。ご本人様に聴取が難しい場合はご家族様に確認したり、本人様の表情や反応を確認し共有し出来るだけ本人様の望まれるような生活を送っていただけよう支援している。	している事が、楽しそうか否か、好きか嫌いかなど反応や表情に気を配り、その場で職員同士が話し合い、思いの把握に努めている。茶碗など買い物の際に入居者の好きな色柄で選ぶ手伝いをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前までの生活を本人様やご家族様に確認しながら可能な限り近づけられるようにしている。ご家族様に協力していただき室内でも使い慣れたものを持ってきて頂くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様と積極的に関わることで、そのときの状況をケース記録に記載し、スタッフ全員が状態を共有できるようにしている。又、得られた情報をカンファレンスなどを通しケアに活かすようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様から意向を聴取しそれを踏まえたうえでカンファレンスを行い、どのようなニーズがありどのように支援していければ達成できるかを話し合い評価しケアプランに反映させている。	本人の「夏祭りに向け歌を披露したい」の練習を組み入れたり、「ラーメン食べに行きたい」に歩いて行く為に段差があるので下肢筋力をつける等ケアプランに反映している。3ヶ月に1回プランを見直し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にケアプランを実際に実施しその結果を記入し、その場にはいないスタッフもその状況を把握した上で、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居前から利用しており、入居後も同様に利用していきたいと希望される方に対しては出来るだけホームの枠にとらわれず対応できるようにしている。又、保険の関係で難しい方に対しても訪問するといった形で対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園や畑などを散歩コースに取り入れ、付き添って商業施設などへ買い物に行くようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様が希望されるかかりつけ医を継続して利用していただくようになっている。ご希望がない場合は協力医療機関をご紹介しますようにしている。	かかりつけ医は基本的に家族が支援通院している。ホームの近くであれば職員が支援することもある。受診時の生活状況は口頭もしくは書面で家族に伝え、受診報告は口頭で受け受診報告書に記入している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師にも申し送りに参加してもらい、状態を把握できるようにしている。又、日中の状態の変化を看護師に報告し適切な対応が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時サマリーを細かく記入するようにし、入院中もご家族や病院と細かく連絡を取り退院時に対応できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様やご家族様に確認しホームで最後まで生活を希望される方に関してはご希望に添えるように支援している。また、ホームで出来ること、出来ないことに関しては十分に説明しその都度ご理解を得るようにしている。	重度化・看取りの指針があり、同意書もいただいている。すでに2例の看取りを実施している。往診クリニックの先生にターミナル(入居者の死をどのように迎えるか)についての研修を受けた。身寄りの無い方の支援では、都度スタッフ、看護師、医師との連携で対応した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や、事故発生時に備えて自分たちがとらなければならない行動をシミュレーションするようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に6回行い、出来るだけ迅速に対応できるよう訓練している。又地域の防災訓練にも参加させていただいている。	訓練に地震想定も加わった。火災訓練では大家さんや地域の人も参加して実施している。訓練終了後の反省会では非常口の活用方法などを話し合った。地域の防災訓練には職員が炊き出しなどに参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄の際は本人様の意思を必ず確認し迅速に行うようにしちる。又、声がけの際などにはプライバシーや羞恥心に充分配慮するようにしている。	名前や名字にさん付けで呼んでいる。トイレの声掛けなどは羞恥心に配慮した誘いで工夫している。ゆったり・のんびりと時間が流れる雰囲気がある。便りの写真掲載時家族の確認を取っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方々の話を傾聴し、常に本人様の希望やニーズがどこにあるのか探るようにしている。出来るだけ答えやすいような形で質問するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活していく上で、職員の都合を優先するのではなく、本人様が今まで生活していたスタイルを継続できるように、本人様の希望を尊重できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一方的に決めてしまうのではなく、着用する衣類なども本人様に選んでいただく機会を多く作っている。希望があればご本人様に付き添って衣類の購入も行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえなどに積極的に参加していただくようにしている。調理作業が難しくとも料理方法を尋ねたり味見をしていただくなどして、一緒に作るということを大切にしている。	献立は各ユニットで1週間ごとに立て、年末に富沢病院の栄養士に指導を受けている。食材の買い物や調理や後片付けなどを入居者と一緒にし、行事の時の出前や誕生日のケーキ作りなどは楽しみの一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量や水分摂取量の把握に努めている。又、1ヶ月に1度体重測定を行い、急速な体重の増減がないか確認するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で難しい方に対してはお手伝いさせて頂いて口腔内の清潔を保つようにしている。自ら行われている方に対しては声がけを行い状態の把握に努め必要に応じて歯科受診へつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を一人ひとりに作成し、必要な方に対しては排泄パターンを把握し誘導を行うようにしている。出来るだけ失敗することのないように声がけ誘導を行っている。	排泄チェック表を活用し、職員のさりげない誘導で失敗する事の無いよう支援している。日中は1人を除いてリハビリパンツや布パンツを使用し、快適に過ごしていただけるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防の為、乳製品を提供したり散歩へお誘いしたり出来るだけ水分を摂って頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間は設定せず、本人様の習慣や希望を優先し入浴していただくようにしている。	入浴は一日おき(希望があれば毎日)午後2時から9時までの間に実施している。生活習慣で夜間浴を希望する人にも対応し支援している。入浴拒否の方には手をつないで気分を盛り上げたり、時間を調整対応している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は安眠を妨害しないように配慮しながら巡視を行うようにし、日中においても状態を把握し疲労等が見られた場合はご本人様が望まれる場所で休むよう声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬の情報を挟み内容を確認するようにしている。内服の際一人で難しい方に関しては介入し必要に応じて介助を行うようにし、誤薬等の防止に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習慣として行ってきたこと、出来る事を手伝っていただいている。自力で難しい時はどこまで出来てどこまで出来ないのか見極めながら必要に応じて介入し継続出来るようお手伝いさせていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなど外へと行って頂ける機会出来るだけでもるように支援している。行きたい所なども本人様やご家族から聴取し出来るだけ行く事が出来るよう支援している。	定期的に行事外出(雑誌を見ながら行きたい所など把握)を企画、デイケアのバスを利用し、西公園、七夕、動物園、名取アリア等に出かけている。交通量の少ないホーム周りの畑や小学校付近を散歩している。職員と喫茶店に出かけコーヒーを飲む事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出先でお金の心配をされる方もあり、スタッフも協力し、ご家族様とも相談して御自分で管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などは制限しておらず、希望があれば電話を取り次いだり手紙を出したりすることを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせてレクリエーション等で作成していただいた塗り絵を飾っている。又外出先で撮影した写真などを貼り出している。	白内障・緑内障の方には電球のワット数を上げたり、電気カーの工夫で明るさを上げるなどしている。湿度は加湿器を使うなど職員が気を配っている。入居者と一緒に作った貼り絵は季節感もあり暖かい。行事写真は家族が手に取って見られる様に工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファを置き、場所を決めずその方の好きな場所へと座っていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にも協力していただき居室にはその方の使い慣れた物を置いていただいている。又、本人様の作った物などを貼ってみたり、ご本人様の希望の家具や小物を買っていく事もある。	家族と寛ぐソファを置いたり、孫の写真を飾ったり、家族が入居者と一緒にインテリアの工夫をしている。鏡が好きな方が姿見が欲しいとの事で、店で一緒に買ってレイアウトしたこともある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所には手すりを設置し、日常に使う物や整容に使う物は安全かつ清潔な場所におき、誰でも使えるように貼り出している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢	ユニット名	参番館
所在地	宮城県仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	平成23年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その方一人ひとりが何を望まれているのか、何を好まれているのかお聞きしたり反応を見ながらスタッフと共に家事活動やレクリエーション、散歩やドライブなど日々の生活を楽しんで送っていただけるように支援しております。得意なことを把握しつつ、その得意なことを発揮していただける場を作るように心掛けております。行事の際に撮影した写真を飾る事や、入居者の方々が作成した作品を飾り、達成感を味わっていただくと共に少しでも心に残るような思い出になるようなことを行うようにしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年11月2日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄富沢駅より徒歩12分、まだ畑等が残る新しい町に位置している。近くにホームの運営母体でありバックアップ施設でもある協力医療機関仙台富沢病院がある。ホームの基本理念「抜粋:笑顔の絶えない生活・家庭的な雰囲気・自分らしさを大切に・近所付き合いや自然との触れ合い」を毎年目標に落とし込み、入居者のケアに反映している。またターミナルの基本理念「笑顔で人生楽しかったと思っただけなら一緒に生活していきます」を踏まえ、看取りを実施している。看取りを経験し「もっとしてあげることがあったのでは?と悔いは残ったが次の時に生かして行こう」と一人ひとりが成長したように思うと職員が話していた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢)「ユニット名 参番館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	やすらぎホーム富沢独自の理念を作成しており職員全員が理念を実践できるように話し合いを行い共有できるように日々努めている。	吉番館「新発見！あなたの喜怒哀楽ありのままの姿で」式番館「一緒にやれば思い出できる、スイッチ見つける、楽しめる信頼関係」参番館「まず、やってみよう」をケアの指針とし、年末にふり返り次年度に反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、行事の際など参加していただいたりご協力いただいたりしている。日常的にも挨拶などを通して関係作りを行っている。	町内会の秋祭りに参加、保育園の夕涼み会やクリスマス会・小学校運動会への招待もある。保育園の畑や近隣の畑も多く、散歩の時など、こちらから積極的に声掛けをしている。ホームの夏祭りには町内の参加も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が広報誌を作成しておりグループホームはどのような所なのか、どのような事を行っているのかなどを記載し回覧板でまわしていただき見ていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行っており、その場で出た意見などは職員と話し合い今後の運営に生かせるようにしている。	毎回包括支援センター職員参加で年6回実施している。施設の状況についてや地域の情報交換はある。今後は入居者・ご家族の参加を促し、双方向的な意見交換を持ち、ホームのサービス向上に活かすよう期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広報誌を仙台市や区役所に送付させていただいている。わからない事などの疑問点は出来るだけ市に確認し、ご指導を仰いでいる。	手続き上の疑問点等についてや実地指導でアドバイスをいただいている。町内会が2年前に設立、地域包括支援センターと一緒に社会資源の一環としてのグループホームの説明や理解をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会に参加し、参加した職員より伝達講習を全体会議の時間を利用して行うようにしている。又、日々のケアを見直し自分たちのケアが身体拘束を行っていないかどうか検証しその後につなげるようにしている。	身体拘束委員会もありユニット合同で毎月1回実施し、どのような事が拘束に繋がるのか、実際に言葉使いや、行動の制止などシュミレーションしてケアに反映している。各ユニットに自由に行き来できるように同行したり、自由度を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修に参加し、参加した職員から伝達講習を受けるようにしている。又身体拘束と同様に虐待に関しても自分たちのケアが虐待には当たっていないか日々のケアを見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加し必要な方に対しては制度を活用できるように支援している。全職員は権利擁護に対して理解していると言いがたい為今後研修を行って生きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明は行っているが、不明な点がある場合はその都度ご説明している。又、いつでもご連絡を頂ける様お話ししている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しておりご意見を頂ける様にしている。家族会などは設けていないが、面会時に気楽に話しかけていただけたような関係作りに努めている。	意見箱を設置、家族から「意見入れておいたよ」の声掛けがある事もある。また来訪時に「服装の調節について」や「外出について」など気軽にお話し頂き、職員間で意思を統一できるようにして対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会を設けており、委員会の会議に管理者も参加しており職員の意見、提案などは出来るだけ尊重するようにしている。	今回の震災を通して、職員で防災備品の総点検をし整備につなげた。各委員会からの提案は管理者が「まず、やってみましょう」と声掛けをし、ケアの実施や敬老会のお楽しみプレゼントなどに意見の反映がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの能力に応じて出来る事をしっかり行っているか見極め給与水準に反映している。又、労働時間は出来るだけ相談に応じるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加してもらうようにしている。研修内容を全体会議で伝達講習を行い、参加できない職員に対しても内容を周知できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修への参加などを通して他の施設などの同業者との交流を通し情報交換などを行い、自分たちの施設のサービスに反映できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時より本人様の話をしっかり良く聞き不安である心情や困っていること等本人様の思いを汲み取るようにしながら、ここが安心できる場所である思ってもらえる様支援させていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の中の心情やサービスを利用するに当たり不安なことを等を解消できるように、入居後の不安に対しても面会時やちょっとした変化でも連絡を取り情報を共有し少しでも安心につながるよう支援させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	以前の生活習慣をお聞きし出来るだけ混乱を避ける為以前の生活に出来るだけ近い状態になるよう心がけている。そのため利用できるサービスであればそのまま利用させていただいたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様に出来る事は出来るだけ行って頂ける様、動作一つとつてもどこまで出来て、どこまで出来ないのかを見極め確認しながら、自分にも出来ることがあると思っただき、自信につながるよう支援させていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にも、利用者の方々がこういうことが出来るということを共有していただく為に面会時や家族の手紙にも細かく書くようにしている。又、行事などご家族様にも参加して頂ける様な会を開き同じ時間を共有して頂ける様支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に協力していただき、以前から通院していた病院を継続して利用していただくようにしている。又、ご本人様が住んでいた場所などの話をしつつ、機会があればドライブなどを通し訪問するようにしている。	馴染みの美容院を利用する時はその美容院に茶飲み友達が集まるよう店主が声掛けしてくれている。「家に行きたい」の思いでは本人の言うままの道を車で支援、家に着くと道を覚えていた事に満足し笑顔が見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの関係性を把握し皆さんで協力できるよう働きかけている。又、一人で過ごすことが多い方に対しても一人で過ごす時間を尊重しつつ、孤立しないよう職員が介入するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院された後もお見舞いに行ったり、亡くなって退去された後もお悔やみ訪問などを行い、ご家族様と関係性を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの時だけではなく、通常時も本人様の言動や表情を観察し、スタッフ同士でも話し合いご本人様にとって何が一番良いのかをその都度検討するようにしている。	している事が、楽しそうか否か、好きか嫌い、など反応や表情に気を配り、その場で職員同士が話し合い、思いの把握に努めている。茶碗など買い物の際に入居者の好きな色柄で選ぶ手伝いをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様に確認したり、本人様ともコミュニケーションをとり、それまでの状況を汲み取るようにしている。得られた情報はその都度フェイスシートに記入するようにし情報を共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に一日の本人様が行ったレクや、様子を細かく記入するようにしている。その場になかった職員もその日の状態がわかるように細かく記入し情報を共有し日々のケアに活かせるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント時やユニット会議の際に話し合いを行いプランに反映できるようにしている。計画作成担当者が一方的に作成するのではなく、ケアカンファを通しご本人様や、ご家族様の意向やスタッフの意見を反映させながら作成している。	本人の「夏祭りに向け歌を披露したい」の練習を組み入れたり、「ラーメン食べに行きたい」に歩いて行く為に段差があるので下肢筋力をつける等ケアプランに反映している。3ヶ月に1回プランを見直し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に一日の様子を細かく記入することで情報を共有し、記録だけではなく気になる事などをその都度ユニットで話し合うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに合わせ、必要であれば地域資源を利用しながら入居者の方々が生活するうえで一番ベストな方法で支えることが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な物や、本人様から買い物のご希望があったときなど本人様たちと近くのスーパーなどへ買い物に行き好きな物を選んで頂くような機会を多く作るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前より利用している病院への通院を希望される場合はご家族様に協力していただき受診へつなげるようにしている。又、かかりつけ医がいない方に関しては協力医療機関を利用していただくようにしている。	かかりつけ医は基本的に家族が支援通院している。ホームの近くであれば職員が支援することもある。受診時の生活状況は口頭もしくは書面で家族に伝え、受診報告は口頭で受け受診報告書に記入している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	血圧や食事の摂取状況、皮膚の状態などで変化があった場合はすぐに看護師へ報告し指示をもらうようにしている。細かいことでも看護師へ報告し看護師は状態の把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中にこまめにお見舞いに行くようにし状態の把握に努めることももちろん、主治医と早めに連絡を取るようにして、出来るだけ早く退院につなげられるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様がグループホームでの看取りを希望される場合は必要に応じて往診していただける医師にご紹介している。また、それまで以上に細かくご家族様に状態の報告を行うようにし、ご本人様もご家族様も安心して最後の時間を迎えて頂ける様支援している。	重度化・看取りの指針があり、同意書もいただいている。すでに2例の看取りを実施している。往診クリニックの先生にターミナル(入居者の死をどのように迎えるか)についての研修を受けた。身寄りの無い方の支援では、都度スタッフ、看護師、医師との連携で対応した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、職員の入職時に急変時の対応を記入した物を渡している。それを元に日頃から訓練を行っているが、経験不足な所もある為今後シュミレーションを通してながら落ち着いて対応できるようにしていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回避難訓練を行っており、迅速に動けるよう訓練している。又、マニュアルと通し消防設備の使い方などの勉強会を行っている。	訓練に地震想定も加わった。火災訓練では大家さんや地域の人も参加して実施している。訓練終了後の反省会では非常口の活用方法などを話し合った。地域の防災訓練には職員が炊き出しなどに参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	加齢や要介護状態が異なっている為、一人ひとりの能力に応じ自立した日常生活を送って頂ける様声掛けなどもご本人様も尊重しつつ行っている。	名前や名字にさん付けで呼んでいる。トイレの声掛けなどは羞恥心に配慮した誘いで工夫している。ゆったり・のんびりと時間が流れる雰囲気がある。便りの写真掲載時家族の確認を取っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	人居されている方々の訴えを傾聴し軽視しないように努力している。自分で出来る事は自分の好きなきに出来るよう環境を整えることや、声掛けも出来るだけご自分で意思決定できるような方法で行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームで楽しく生活して頂けるようにその人らしさを活かし一人ひとりのペースで生活して頂けるよう働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着用する衣類はご本人様に選んでいただいたり、夏祭りなどははれの日にはお化粧して着飾っていただくなどご本人様がご希望される時は出来るだけ行うことができるよう対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな物を食べて頂ける様な機会を作ることもちろん、食事の続けることが出来るように食事の形態や食材などを選び負担にならないように提供している。又、盛り付けの工夫なども行っている。	献立は各ユニットで1週間ごとに立て、年末に富沢病院の栄養士に指導を受けている。食材の買い物や調理や後片付けなどを入居者と一緒にし、行事の時の出前や誕生日のケーキ作りなどは楽しみの一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量は把握し、バランスよく摂取して頂ける様支援している。又、食事摂取の状況を把握し、必要に応じて補食などで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方に対してはお声掛けを行うようにし、出来ない方に対しては口腔ケアを毎食後お手伝いさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ失敗することがないように排泄パターンにあわせてトイレ誘導を行うようにしたり、自らトイレに行かれる方に対しても長時間行かれない場合などには自尊心に配慮しつつ声掛けにてトイレを促したりしている。	排泄チェック表を活用し、職員のさりげない誘導で失敗する事の無いよう支援している。日中は1人を除いてリハビリパンツや布パンツを使用し、快適に過ごしていただけるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの方に対しては、出来るだけ水分を摂って頂ける様にお声掛けし、咀嚼の回数が明らかに少ない方にはゆっくり食べるようお声掛けするようにしている。又、朝に牛乳や水を飲んでいただくことで排便につなげられるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めずに出来るだけ語本人様のご希望に添えるように対応している。入浴前にバイタルなども測定し入浴時間など配慮するようにしている。	入浴は一日おき(希望があれば毎日)午後2時から9時までの間に実施している。生活習慣で夜間入浴を希望する人にも対応し支援している。入浴拒否の方には手をつないで気分を盛り上げたり、時間を調整対応している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休まれる際の明るさや、温度湿度に気を配り安眠を促せるようにしている。夜眠れないような方に対しても無理に休んで頂くのではなく、温かい飲み物を提供することや、お話を傾聴することで休む気になられてから休んで頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の回数や、内服漏れの内容を確認を行っている。錠剤で内服しづらい場合は、主治医にも相談し他の薬や粉碎した物を内服していただくようにしている。内服の変更なども受診報告書を確認し把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の個性を大切にし、自由に表現できるように支援させていただいている。自分の意思表示が難しい方に対しては行動や反応を見ていきながらお勧めするようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日の時などにご本人様のご希望にあわせて外食をするなどの機会を設けている。又、入居者の方々が外出を希望される時に出来るだけ対応できるようお手伝いさせていただいている。	定期的に行事外出(雑誌を見ながら行きたい所など把握)を企画、デイケアのバスを利用し、西公園、七夕、動物園、名取アリ等に出かけている。交通量の少ないホーム周りの畑や小学校付近を散歩している。職員と喫茶店に出かけコーヒーを飲む事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様がお金を持っている方も居られるが、ほとんどの方はグループホームで管理している。本人様の買い物の際などにお金をお渡しし支払いをして頂く事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に電話など希望される方に対しては取り次いだり実際にかけていただいたりしている。又、お手紙は書いていただいたものを職員と一緒に出しに行く事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内は気温の変化には気付きにくい飾り物を作成することで季節感をあわすようにしている。又、入居者の方々が過ごしやすくその都度光の量や室温などを調節している。	白内障・緑内障の方には電球のワット数を上げたり、電気カバーの工夫で明るさを上げるなどしている。湿度は加湿器を使うなど職員が気を配っている。入居者と一緒に作った貼り絵は季節感もあり暖かい。行事写真は家族が手に取って見られる様に工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内に椅子やソファを設置し、他の方々と過ごしたい時は過ごしていただき、一人になりたいときは一人で過ごせるような環境を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物をご家族様に用意していただいたり、ご本人様が必要な物を職員と一緒に買出しに行き補充するようにしている。	家族と寛ぐソファを置いたり、孫の写真を飾ったり、家族が入居者と一緒にインテリアの工夫をしている。鏡が好きな方が姿見が欲しいとの事で、店で一緒に買ってレイアウトしたこともある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	外から見えないようにしまっている物もいつでも使って頂ける様にクローゼットなどに入っている物を張り出しいつでも使えるようにしている。又入居者の方々も自分で取り出して歌を歌ったりする様子も見られている。		